

# 12月定例記者会見 会見録

令和5年（2023年）12月12日（火）11:00～11:52 庁議室

## 質疑応答

### ■市役所窓口の受付時間変更後の現況について

#### 記者A

時間外の実績が全体で955時間減少したとのことですが、1部署当たりの平均減少時間を教えてください。また、2か月経って実際に実績等が上がってきていますが、改めて今回の受付時間変更についての所感をお願いします。

#### 総務部

今回見えてきた数字からの算出になりますが、対象が100部署程ありますので、1部署当たりになると10時間程度になります。

#### 市長

今回の受付時間短縮は、それまでの受付時間が残業前提になっていたことが大きな問題意識の一つにありました。それを改善し、中長期的なサービス向上を目指しています。特に大きな課題となっていたのは市民窓口課です。マイナンバーカードの業務が落ち着いたことも一つの要素にありますが、それであっても非常に大きな時間外の削減がなされました。今回配付した資料だけですとやや分かりにくいかもしれませんが、基本的に手続きや書類の窓口対応が多い部署が課題でしたので、今後数か月運用を行った後に、定量・定性両面からきちんと分析をしてお出ししたいと考えています。例えば、納税課や国民健康保険課、幼児保育課など手続きが多い部署は軒並み時間外が減少しており、非常に明確な効果があったと思っています。受付時間を短縮した分、朝は窓口サービスの開始に向けた準備が出来たり、夕方の時間はこれまでやらなければいけないのに出来ていなかった業務の確認に充てたりしています。サービス改善に向けた動きが出来ていますが、一番は労働基準法の点から非常に問題があったところが大きく改善しました。一方で、時間外が増えている部署もあります。それは以前からの課題でもあるのですが、職員の退職等によるもので、窓口の受付時間とはあまり関係が無いものです。また、市民の皆さんにご理解をいただいていることが非常にありがたいと思いました。これまでの来庁時間を分析すると、もっと多くの方が短縮した時間内（8時30分～8時45分、16時30分～17時15分の時間帯）に来庁することを

予想していました。おそらく各種媒体によって、完璧とは言いませんが、ある程度必要な所へ情報が届いたので、冒頭でご説明した来庁者数で済んだのだと思っています。私も実際に開始当初、市役所の1階で閉庁後にいらした方と直接お話をしました。最初はお怒りでも、事情をご説明すると、「そういうことなら仕方ない。残業は減らさないといけないよね」と返してくださいました。非常によくご理解をいただけることはありがたいです。取組発表時にご説明したとおり、今後の繁忙期の運用については、時間をどうするか、より柔軟に行うことを検討しています。他自治体の関心も非常に高いので、数か月位データ等を見て、レポートのような何らかの形で、特に窓口対応部署にどのような変化が起きたのかについて公表していきたいと考えています。

### **記者B**

繁忙期は柔軟に対応するとのことですが、何月からどのように取り組むのか決まっていますか。

### **市長**

一般的に3月下旬と4月上旬で、つくば市の場合は非常に転入出が多いので、そこにどう対応できるかです。制度設計という難しい話でもないですが、きちんと対応していきたいと思っています。

### **総務部**

3月位からになると思います。各課に色々と呼び掛けているところで、柔軟に少し時間を延ばすことを考えている部署もあります。まだ詰め切れておらず具体化していませんが、これから協議してまいります。

### **記者B**

課ごとの対応になるのでしょうか。

### **総務部**

課や部署ごとになると思います。

### **記者B**

それはそれで、告知も大変だと思いますが。

**総務部**

ホームページやSNS等を使ったり、窓口以案内板も出させていただいたりしながら対応していきたいと考えています。

**記者C**

時間外の実績が全体で955時間減少したとのことですが、1人当たりではどれくらいになるのでしょうか。

**総務部**

今回お示しした数字を単純に人数で割って1人当たりの時間を算出することはできませんが、部署により時間外に差があるので、実際はまちまちになります。

**記者C**

では、例えば市民窓口課は何人で595時間減少したのでしょうか。

**総務部**

市民窓口課は38人ですので、その人数で割れば1人当たりが出ると思います。

**記者C**

38人で計595時間減少したということによろしいですか。

**総務部**

はい。

**記者D**

その約600時間の減少により、経費は大体どれくらい浮いたのでしょうか。

**総務部**

時間外手当を、平均単価当たり3,000円という計算で、ざっくりとした算出にはなっています。

**記者D**

平均単価3,000円で、そこから概ね全体の金額が算出されるのですね。

**総務部**

はい、そうなると思います。

**記者E**

添付の窓口受付時間変更に伴う状況調査資料のQ7で幾つか課題を挙げられています。例えば、「受付時間後も市民が入ってくることができるため窓口まで来てしまう。受ける・受けないは担当課判断となっているが、受けなかった場合に窓口での苦情はもちろん、『市民の声』にも意見が入るため、結局は受けざるを得ない」等です。これらの課題について、具体的な改善策を考えていることがあれば、教えてください。

**総務部**

色々と話し合っているところではありますが、案内板等をもっときちんと立てる等、周知部分の対応になると思います。ただ、閉庁後にあまりにも物理的に閉鎖するという話はしていませんが、案内板等をうまく活用して強化していきたいと考えています。

**記者E**

その他に、対応を考えていることや改善出来ていることはありますか。

**総務部**

この辺のところを現在、状況調査の結果を見ながら色々と話し合っているところです。

**記者D**

現在、閉庁の10分や15分位前に、「窓口の受付時間は16時30分までです」という館内放送は流していますか。

**総務部**

館内放送ではなく、閉庁時の16時30分にチャイムを鳴らす形をとっています。館内放送に関しても、協議しているところです。

## 記者D

一歩二歩先のことを考えて、16時や16時15分頃に前倒しして館内放送を流すのはいかがでしょうか。

## 総務部

そういったことも含め色々と協議をしていきます。

## ■「SPY×FAMILY in つくば ～どきどきだいさくせんっ！～自然と科学のまちを、堪能せよ!!～」の開催について

### 記者F

「SPY×FAMILY」はどのような話で、それが筑波山ゲートパークのつくばジオミュージアムとどのようにマッチするのか教えてください。また、直接は関係無いのかもしれませんが、筑波山ゲートパークが開業して1か月が経ち、来館者数等の実績と、それが想定内なのかどうか、お伺いします。

## 市長

「SPY×FAMILY」は、スパイと殺し屋、超能力者が正体を隠した仮初めの家族となり、普通の日常を送るために奮闘するホームコメディです。

## 経済部

もともとはつくば市内にアニメ制作会社のWIT STUDIOのサテライトオフィスがあるという縁から、今回の企画が持ち上がりました。その企画の第一弾としてWIT STUDIOが手掛ける大人気作品「SPY×FAMILY」を使ったイベントを実施することになりました。企画はこちらから持ち掛けました。

## 市長

WIT STUDIOは、「進撃の巨人」等も手掛けた世界的なアニメ制作会社です。

## 経済部

つくばジオミュージアムの来館者数は、11月1,175人、12月は10日現在で355人です。

## 記者F

年間でどれぐらいの来館者数を想定していますか。

## 経済部

そこまでの目標値は立てていませんが、11月は8つの団体の方も利用されています。今後、そのような状況を見ながら進めていきたいと思っています。

## 記者F

滑り出しは好調ということでしょうか。

## 市長

そのような認識をしています。普通は認知されるまでに時間がかかりますが、非常に多くの方が来館してくださっていると感じています。色々と他を見て回りましたが、本来ジオパークの拠点というのは、そんなに人が来る場所ではありません。他がどうということでは無いのですが、この傾向のままいけばかなり意義のあるジオ拠点になっていくと思っています。

## 記者B

「SPY×FAMILY」は、テレビ東京で人気のキャラクターだと思うのですが、今回は単発での協力でしょうか。

## 経済部

令和7年2月28日まで「SPY×FAMILY」の著作権を使えますので、その間につくばジオミュージアムで、このようなイベントを組んでいきたいと思っています。

## 記者B

「弱虫ペダル」のように、継続してタッグを組んでいくことまで考えていますか。

## 経済部

今後、筑波山ゲートパーク2階の一室に、パネル展示会場をオープンする予定です。また、オリジナルグッズを作ったり、市内周遊スタンプラリー等を展開したりしてい

きたいと考えています。

## 市長

一発で終わりではなく、継続的にやっていく考えです。今回はつくば観光コンベンション協会がメインで実施していますが、単発で終わっては意味がないと思います。こちらの希望だけではありませんが、継続した形でどのようなコラボが可能か検討していきます。

## 記者B

「弱虫ペダル」と「SPY×FAMILY」の二本柱のような感じでしょうか。

## 市長

二本柱なのかは分かりませんが、「弱虫ペダル」という非常に強いコンテンツに、もう一つ非常に強いコンテンツが加わったことは、ものすごく価値がありますので、より分厚くしていきたいと思っています。

## 記者C

イベントの対象年齢や、どのようなターゲットを想定しているのか教えてください。

## 経済部

ワークショップは小学生が対象です。体験型ゲームの謎解きの方は、小学生から大人まで楽しめます。

## 記者D

作者が茨城県出身で、スタジオがつくば市にあることを知らない市民の方がおそらく多いのではと思います。「弱虫ペダル」を通じた経済効果はある程度出ていると思いますが、この「SPY×FAMILY」を通じた経済効果について、目算を立てているようでしたら教えてください。

## 市長

今回の企画による来館者数等から、終了後に算出することはできると思いますが、現時点ではご質問にあるような数字は出せないと思います。ご存知のように、経済効果

というのは、何とでも言えてしまうもので、取り方によって如何様にもなってしまいます。この筑波山ゲートパークという場所で、強いアニメコンテンツの柱がもう一本出来たことにより、場としての価値が上がり、様々な効果が出てきます。それを数字として算出するのは、もう少し時間がかかると思っています。

## 記者D

つくば市を含めたゆかりの地探訪ツアーのような企画を提案することも視野に入っていますか。

## 市長

よく聖地化や聖地巡礼と言いますが、それを主眼として何が何でもここへ人を呼び込むと言うよりは、地域の非常に大事な拠点である筑波山ゲートパークの価値が高まることにより、多くの人を訪れ、そこからさらに人が地域に流れていくことを目指しています。これは「弱虫ペダル」にしても「SPY×FAMILY」にしてもそうです。筑波山ゲートパーク内だけで完結するのではなく、その周辺の人との繋がりや、地域の事業者とコラボしたイベントの実施等につなげていくことが重要だと思っています。もちろん、たくさんのファンの方にお越しいただきたいのですが、そこだけで閉じるのではなく、その先には、つくばや筑波山地域の魅力をどう知って感じていただくかに主眼を置いて取り組んでいきたいと考えています。表現が難しいのですが、「弱虫ペダル」や「SPY×FAMILY」の聖地になることを目指している訳ではないと言いたいです。コンテンツも一つの材料として、地域全体の価値が高まるということです。一方で今、聖地ツアー等の観光で問題になっているエリアも多数ありますので、その辺りはあまり浮き足立つことなく、行政として地に足をつけて色々な取組を実施していきたいと考えています。

## ■洞峰公園リニューアルについて

### 記者G

洞峰公園の無償譲渡に関する市民アンケート結果の速報について所感をお願いします。

### 市長

まだ速報値で、全部を読み込んだ訳ではありませんが、前提として重要なのは、数字



に主眼を置いて数が多かったからどうするという話ではないということです。このアンケート結果を踏まえ、今後の協議会運営に資する議論をしていきたいと考えています。その前提で、いくつかの数字を見ますと、例えば無償譲渡に関しては、「どちらかといえば」も含めれば、およそ4分の3にあたる74%の方が賛成、現在の公園環境を維持したいという方は8割を超えています。また、値上げについても3分の2にあたる方が賛成しています。正直値上げについては、もう少し賛成の割合が低いと思っていましたが、それだけ市民の皆さんが洞峰公園を維持することに対し、強い思いを持っていらっしゃる事が改めて確認出来ました。説明会等も行ってきましたが、今回のアンケート結果はそこでいただいたものと同じような感触でした。このようなことは大事だと思っています。アンケートで出た数字が自分の認識している体感値とずれがあるのは政治家として冷静な認識が出来ていないことになりませんが、今回の数字はおおよそ感覚値としては近かったです。無償譲渡が決まったと思っている方も多くいらっしゃったようで、そういう意味においても、値上げについてはもう少し控え目な数字になると思っていました。それも含め数字が高かったことは、ある意味非常に再確認することが多いアンケート結果でした。

## 記者G

来年2月に譲渡する方向で検討されていると思いますが、協議会の立ち上げはいつ頃になるのでしょうか。

## 市長

譲渡が決まってからでなければ立ち上げることは出来ませんので、それが2月になってからなのか、議決をいただいてもう少し前になるのかどうかはこれからになります。協議会にどのような方々に入っていただくか等についても時間がかかりますので、すぐに立ち上げるというよりは、その頃に立ち上げたいという考えでいます。

## ■環境省「脱炭素先行地域」の選定について

### 記者G

最大50億円という多額の交付金が支給されるとのことで、意気込みをお聞かせください。環境省は、この先行地域から脱炭素ドミノを広げていくということですが、つくば市は特殊な地域でもあると思います。どのように広げていくお考えでしょうか。

## 市長

まず、選定されたことは非常に良かったと思っています。これまでつくば市は様々な取組を行ってきていますが、脱炭素に対する踏み込んだ施策や総合的な取組は必ずしも出来ておらず、ずっと課題だと思ってきました。今回、国が進める方針である「脱炭素先行地域」に、かなり狭い枠でしたが入れたことは非常に良かったです。これをきっかけに、きちんと取組を進めていきたいと考えています。脱炭素ドミノについては、国からも指摘されたとおり、これからどう横展開していくかが非常に大きな課題です。特に、つくば市では共同溝という、特殊性のある構造物を使って事業を行います。それがそのまま他でも出来るかという、必ずしもそうでは無いと思いますが、つくば市の顔の一つであるつくば駅の周辺同様に、つくばエクスプレスの各駅や、いわゆる研究学園都市である松代や竹園、吾妻、並木等、事業者が集中しているエリアが市内には幾つかありますので、そのような所に共同溝があれば一定程度、汎用可能だと思っています。より地域資源を考えれば、R8にまで色々出来れば良いと考えています。つまりは、まず一定の集積がある所へ横展開をしていくことが望ましく、そのような所から始めていければと思います。

## 記者G

魚油等、別の所の再生可能エネルギーで発電されたものを引っ張ってきている部分もあり、ある意味においては、一つの地域のために、他の所から市のリソースを引っ張ってきているようにも見えます。2050年に市全体で排出ゼロにするために、どのように取り組んでいきますか。

## 市長

この取組を広げていくのが、重要な一つだと思っています。併せて、先日、気候市民会議つくばで提言をいただきました。これは、ミニ・パブリックスの形で、年齢や地域、性別等をミニつくば市になるように構成した50人の方々に議論していただきました。脱炭素は一部だけで行っても限界があります。脱炭素や気候変動に対する取組を、いかに市民の共通課題として意識的に取り組んでいけるかが非常に大きな鍵になると思っています。今、世界で進んでいる事例は、いかに市民を巻き込むかの次元ではなく、市民が主体的に動くような環境をいかに作っていくかという流れです。つくば市でもそのようなことを行っていない限りは、とても2050年の目標は実現できません。逆に、一人一人が努力をすれば、凄く色々なことが数字としても減っていくと思

っています。プラごみはその典型です。あるいは、燃やせるごみの量にしても、つくば市の場合は1日に50数グラム減らせれば、いったんは良かったのですが、それはティッシュの空き箱1箱位な訳です。そういったものをきちんと分別するかしないかといった行動の積み重ねが、大きな変化を生み出すと思っていますので、それをやりたいのが1点です。加えて、つくば市の場合は、事業系の中でも研究機関の出しているごみが非常に多くあります。研究機関の皆さんも様々な努力をしながらやっています。世界の脱炭素のために実験しているものを市として止めるということはありませんので、引き続き研究機関の皆さんと連携をしながら、どういう形が可能か等もよく話をしながら、進めていきたいと考えています。

## ■救急隊不搬送事案について

### 記者G

今回の件を受けてのコメントをお願いします。また、一部報道では男児に急性脳症や障害が残っているという話もありましたが、担当課に伺ったところ、個人情報なのでお話できませんとのことでした。第三者委員会も非公開で行われ、結果も公表する予定は無いと言われました。これだけ重大な事案で、そのような対応で良いのかどうかお伺いします。

### 市長

結果は当然、何らかの形で公表すると思います。

### 消防本部

第三者の検証委員会を設置しますので、現時点においては検討する段階ということになります。

### 市長

市としては、この第三者委員会によって自分たちの何かを守るということではなく、とにかく事実を開示し、第三者の方々の評価をいただきたいと思っています。先方からもそれについてご了承をいただいています。公表・非公表という認識は無かったのですが当然、何らかの形でご説明をすることが必要だと考えています。ただ、今の段階では、第三者委員会できちんとお話をし、様々な機微情報がありますので、そのプロセスは、どうしても非公表になってしまいます。その後は、もちろんご相談の上で

となりますが、しっかり説明責任を果たす必要があると思っています。

#### **記者H**

そもそも搬送・不搬送は、どのような基準や規程に基づいて判断をされているのでしょうか。また、それを策定しているのは、県と市のどちらなのか教えてください。

#### **消防本部**

市の救急業務規程に基づき、搬送・不搬送の定義を定めています。

#### **記者H**

病気では無いのに救急車を呼んで、救急隊側の業務が凄く多くなってしまふことが全国的に問題になりました。例えば、コロナ禍を経て、その規程が少し厳しくなったり、規程自体は変わっていなくても現場での運用を変更していたりする可能性はありますか。

#### **消防本部**

規程等は変わっていませんが、通報内容や救急隊が現場において観察した内容等を含め、救急隊の判断により、そこで搬送・不搬送を決めています。

#### **記者H**

今回のように、小さな男の子がかなりの高熱を出しているといったところまで、市の救急業務規程で厳密に定められているのでしょうか。例えば、何歳児以下、何度以上の高熱であれば基本的には搬送する、といった規定があるのか、そういったところはあくまでも救急隊の判断になるのか、どちらでしょうか。

#### **消防本部**

救急隊の判断、ご家族とのやりとり等、そういった点を全て総合的に判断した結果、搬送・不搬送の形をとっています。

#### **記者H**

分かりました。最後に、市長に確認したいのですが先程、ご相談の上ではありますが、きちんとして説明するのが責任だとおっしゃっていました。それはご家族に加え、報道

に対しても公表していただけるのでしょうか。

## 市長

ご家族にお伝えするのは当然ですが、報道機関や議会、市民に対する説明責任があると考えています。もちろん、ご家族の同意が無ければ難しいですし、あるいは第三者委員会がどのようなご判断をされるかにもよりますが、少なくとも大まかな結果については説明をしなければ、行政としては不適切だと思います。相手があることなので、今お約束は出来ませんが、私としては当然、少なくとも結果の大枠については公表すべきだろうと考えています。

## ■農業委員会委員の候補者選考会について

### 記者I

選考会が始まりましたが、3年前の今回は地区別人数割が問題となりました。今後、3月議会に出すと思うのですが、どのような考えをお持ちなのか伺います。

## 市長

農業委員というのは全体を見ていくものですので、適切な人を選ぶことに尽きると思っています。様々な基準がありますので、それに基づいて行っていきます。前回からお話をしていますように、あくまでも農業委員会は、基準として必ずしもその地区の代表という形は取っていません。しかし、そうは言っても例えば1人もいない等になると課題があるでしょうから、そういったところのバランスを見ながら進めます。ただ、あくまでも市全体の農業委員であることは変わらないと思っています。

## 農業委員会事務局

前回も議論になりました地区バランスに関してですが、平成28年4月1日施行の農業委員会等に関する法律によって、選挙区割による公選制は既に廃止されています。ただ、農業委員会の運営実務上、地区バランスに関して配慮すべきとの点に鑑み、12月4日に開催した第1回選考会でも検討をしました。基準や項目を設けて点数化した上で、客観的な評価指標として位置づけるところもありますので、第1回選考会では、その評価結果に応じて地区バランスに関して考慮することが良いのではとの結論に至りました。

## ■高エネ研南側未利用地について

### 記者J

グッドマンジャパン社の開発行為につきまして、地域住民に対する会合形式の説明会が開かれませんでした。対象住民へは文書を配付して代替したとのことですが、市としてそのようなやり方を認めているということでしょうか。

### 市長

地域の区長さん方ともお話をしながら進めていると伺っており、これまで議会で答弁しているとおりです。

### 記者J

もちろん区長さんは、その地域の代表になります。しかし、関心を持っているのは、その周辺に住んでいる方々です。通常、例えば太陽光パネルを設置したり、工場を新設したりする等のいわゆる開発行為の場合は、地域住民に納得してもらう趣旨で説明会を開催し、計画の内容や迷惑をかけた場合の補償等について説明します。それを行わずに、文書を配付して終わりというやり方を市が認めたということですね。

### 市長

基本的に開発行為に伴う住民説明会は、申請地周辺の住民自治組織の代表等と協議をしていくとのこと、その結果、今回は書面開催になったとの報告を受けています。プロセスとして、住民代表の方と書面開催を決めたと認識しています。

### 記者J

今後、つくば市内で新しい工場を建てる業者が、今回同様に会合形式ではなく書面配付形式で行いたいという場合、前例を作ってしまったため、認めざるを得ないと理解して良いですか。

### 市長

あくまでもこれは、開発行為に伴う住民説明会をどのように行うかということです。地域住民の皆様が「そのような形式で大丈夫です。開催までしなくて良いですよ」ということであれば、そのとおりに進めますし、逆に地域が望まないにも関わらず住民説明会を開催するのも違うと思います。住民の皆様が望むのであれば、すべきである

と思います。

### **記者J**

区長さんと話し合っ、その他の何百世帯の方が知らない間に手続きが済んでしまったというのは行政のあり方としては余りにもルーズだと思います。他の市町村の事例はこれから調べますが、つくば市が非常に特異なケースとなった場合、市の行政として非常に恥ずかしいのではないのでしょうか。

### **市長**

今回は、行政がお話しをしたのではなく、事業者と区長さん方、代表の方が話し合って決めた手続きだと思っています。

### **記者J**

要するに前例として、つくば市の行政ではこのやり方がセットされたということでしょうか。

### **市長**

これまでも住民説明会は、必ず開催というより、色々な形で行っているという認識です。

### **都市計画部**

これまでも、書面で住民説明会を開催したことはありました。それは、地域住民である区長さん方と協議をしながら行ったという経緯です。

### **記者J**

分かりました。今回は、つくば市にとっても私たちにとっても関心が高い案件です。当然、洞峰公園の問題と同様に、地域住民にきちんと説明するのが正しい行政手法ではないかと思っています。そういう意味において、洞峰公園のアンケート調査も含め市の行政全般の手続きが非常にルーズになっているのではないかと心配しています。その辺を市民が納得するような手続きでやっていただきたいと要望しておきます。

終了